

# ベルギーのアルメニア人コミュニティ

松井真之介

## 【発表要旨】

本発表では、古来より存在するベルギーのアルメニア人コミュニティの特徴と現状を、アルメニア人とその歴史、文化についての概要をはさみつつ総括的に紹介する。

14世紀から始まるベルギーのアルメニア人コミュニティは、ブルッヘにおいて絨毯を中心とする東西貿易の仲介商人と聖職者、知識人を中心に始まる。その後19世紀末から20世紀初頭にかけて、アルメニア人は絨毯貿易に加え、ベルギーのタバコ産業およびアントウェルペンのダイヤモンド産業の重要な一角を牛耳るまでになる。

商人中心のアルメニア人コミュニティの構成は1920年代に大きく変化する。1915年のオスマン帝国によるアルメニア人大虐殺からの避難民の流入によって、コミュニティはあらゆる年齢・社会階層を含むものとなる。それ以降も中東および旧ソ連の政治変動によってアルメニア人はベルギーに流入し現在に至る。

現在のベルギーのコミュニティは、ヨーロッパの政治経済センターとしての地の利を生かした活動が特徴的である。それほど大きくないコミュニティにもかかわらず、「ジェノサイド認知」活動の中心であり、コミュニティは非常に活発な様相を見せている。また、「小さくて活発な」コミュニティだからであろうか、2010年ごろから始まったアルメニア教会の分裂の余波も猛烈に受けているのも、このコミュニティの特徴としてあげられるだろう。

## 【発表内容】

### アルメニアの概要

<図> アルメニアはどこにある？

<図> 変わり続ける「アルメニア」

### ディアスポラからアルメニアを見る

歴史的に形成されたアルメニア人ディアスポラ

#### ① 被害者ディアスポラとして

- ・被征服・侵略の歴史
- ・中世のキリキア・アルメニア王国(1196-1375)
  - ← 国そのものがディアスポラ
- ・1894-96年、1915年、オスマン帝国でのアルメニア人虐殺 ←これが最大
- ・第2次世界大戦後の度重なる中東政変
  - ←1950年代以降のトルコ共和国におけるアルメニア人迫害、1975年のレバノン内戦、1979年のイラン革命など
- ・ソヴィエト崩壊による新たなディアスポラ
  - ←旧ソ連、特にアルメニア共和国から

#### ② 交易ディアスポラとして

- ・離散の地で活発な商業活動
- ・言語(学校)・宗教(教会)・自治組織(互助会やギルドなど)を求心力にする。

<図>アルメニア人ディアスポラの世界的分布

<図>アルメニア商人

## 最初の在自（ベルギー）アルメニア人コミュニティ

4世紀には聖職者や商人、知識人來自

- ・トンヘレンの聖セルヴェ(アルメニア人宣教師)の存在
- ・11世紀初頭のヘントにアルメニア人伝道師の存在

中世ブルッヘのアルメニア商人

- ・14世紀初頭(1340)から16世紀に東西貿易で活躍
- ・主に絨毯、その他は綿製品、スパイス、香料などを扱う
- ・1345年にブルッヘ大聖堂の外で絨毯販売が許可される
- ・1478年にはアルメニア人設立の養護院があった

## 近代の在自アルメニア人コミュニティ

細々と続くアルメニア商人の貿易 → 中心地はアムステルダムへ

アルメニア商人が得意とする3つの分野

- ① 絨毯 ② タバコ ③ ダイヤモンド
- ② 19世紀末～20世紀初頭におけるベルギータバコ産業の独占状態
  - ・タバコ販売の自由
  - ・Davros, Arax, Marouf, Enfi などのブランド
  - ・Missirian 家、Tchamkerzian 家、Matossian 家、Enfiadjian 家による独占

<図> Marouf ブランドの広告(ヘント)

- ・現在はアルメニア人の手を離れている
- ③ アントウェルペンのダイヤモンド産業の一角を担うアルメニア人
  - ・1920年にベルギーダイヤモンドクラブの会長となった Barsamian 家
  - ・ほぼコンスタンティノポリス出身のアルメニア人で占められる
  - ・Tcherkezian 家、Ipekjian 家、Hampartsoumian 家などのトップメーカー
- ① 再び絨毯産業
  - ・現在も続くアントウェルペンの Karakehian 家

● 近代までは商人中心のコミュニティだった。

## 20世紀のアルメニア人コミュニティ

1920年代にアルメニア人急増

- ・1915年の「アルメニア人大虐殺」からの避難民

1922年に「ベルギー・アルメニア人委員会」創設

- ・今でもベルギーのアルメニア人コミュニティの中核・統合機関(ベルギー政府公認)

第2次世界大戦後: 中東からの移民

- ・トルコ、レバノン、シリア、イラン ← 前述の中東政変からの避難民
- ・東トルコのクルドの2村から1,500人の難民受け入れ事例も

1990年代以降: 旧ソ連、特にアルメニア共和国からの移民

● 年齢層、職業・社会階層雑多な構成に

## 現在の在自アルメニア人コミュニティ

現在 11,000人 存在すると言われている

1つのアルメニア使徒教会と2つのアルメニア・プロテスタント教会

・アルメニア人の 90%は使徒教会の成員、残り 5%ずつがアルメニア・カトリックとアルメニア・プロテスタント

・1990年、ブリュッセルのカンデルマンス通り Rue Kindermens にアルメニア使徒教会会堂完成

● **アルメニア人の中でもマイノリティであるプロテスタントが比較的目立つ**

小さいながら緊密で活発なコミュニティ活動

コミュニティ誌“Hay”の存在

・「ベルギー・アルメニア人委員会」発行

・”Hay”とはアルメニア人の自称

※「アルメニア」:ハヤスダン Hayasdan、「アルメニア人」:ハイ Hay

<図> ブリュッセルのアルメニア教会

## ベルギーのアルメニア人コミュニティの特徴

「小さいながらも活発」と言われている

活発な「ジェノサイド認知活動」

・1915年のオスマン帝国で起きたアルメニア人大虐殺を、「オスマン帝国による組織的なアルメニア人ジェノサイド」であると国際的およびトルコ共和国に認知させるアルメニア人ディアスポラの活動

・トルコ共和国は一貫して「否認主義」Nagationisme をとっている

・国際機関(EUなど)が集中するブリュッセルという地の利を生かした活動

・ヨーロッパのアルメニア人コミュニティの出先機関的役割

● 1998年3月26日:ベルギー上院がアルメニア人大虐殺を「ジェノサイド」と認知

・2002年12月:ベルギー政府が公式認知

・2005年以来、議会で「ジェノサイド否定禁止法案」が審議されている

・「アルメニア人ジェノサイド認知」はフランスをはじめとする、欧米の潮流となっている

<図> アルメニア人「ジェノサイド」祈念碑

## cf.) アルメニア人大虐殺問題

1894-96年の虐殺、1909年アダナでの虐殺

● 1915年の大虐殺

・虐殺、追放、強制改宗などで100万人前後の「犠牲者」

・アルメニア人側は「150万人」とする

・生存者とその子孫が現代のアルメニア人ディアスポラの大半を占める

・トルコ共和国の否認主義「組織的ではない」

VS 欧米諸国の認知主義「ジェノサイドだ」

● アルメニア人の「場外でのにらみ合い」か